

第 3 学 年

- 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導法の工夫」
－ 国語科「話す・聞く」の学習を通して －

2 育てたい力

◆表現力

- あいてにわかるように筋道を立てて話す力
⇒ 順序だてて、大事なことを落とさずに話す。
伝えたいことを考えて分かりやすく話す。

◆コミュニケーション力

- 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合う力
- 互いの考えを分かり、認め合える力

3 研究の視点と手だて

【視点 1】国語科の基礎基本の定着を図る活動の工夫

- ワークシートの工夫
書くことに慣れ、書く力を高めるために、話すことの有効な手立てとなるために、各々の目的を考え、単元ごとに内容を検討し作成する。
- 国語スキルタイムの活用
漢字練習や言語プリント、ミニ作文、国語辞典での意味調べや言葉調べを行う。

【視点 2】「話す・聞く」力を高めるための話し合い活動における工夫

- 話し合いの形態の工夫
話し合いや発表の目的により、ペア・グループ・学級全体など段階的に形態を工夫して、効果的な意見の交流を図る。
- 話し合いにふさわしい場の設定
教室や多目的室において、机や椅子の配置を工夫して話し合いや発表を行ったり、「話す・聞く態度」を示した掲示物を貼っておき意識化を図ったりする。

【視点 3】日常的な活動の場での工夫

- 朝の会や帰りの会でのよりよいスピーチの定着化
5W1H（特に理由）を取り入れテーマに沿って自分の考えを発表できるようにさせる。聞き手は話し手に共感して
- 場面や聞く相手にふさわしい話し方の意識化
声の大きさや言葉使い（語尾など）に注意させる。

第3学年 成果と課題 (◎ 成果, ▲ 課題)

【視点1】国語科の基礎基本を図る活動の工夫

ワークシートの工夫

- ◎児童の実態を考慮し、時間内で活用できる内容にしたことで無理なく記入することができた。書くことに慣れてきたことを感じる。更にシートに記入することで自分の意見を発表しやすくなり、内容を確認しながら聞くことにも大変有効な手立てとなった。また作成したシートで思考が整理・視覚化されて学習のまとめとなり、内容の振り返りや次の段階の学習に生かしていくことに役立った。
- ▲他学級で活用のシートを参考にしつつ、適宜改良しながら作成して使用していったが、時間的制約等から教科用指導書のワークシートを使用することも多かった。ふさわしい内容のシートを撰んだり作成したりするために更に工夫が必要と考える。

国語スキルタイムの活用

- ◎漢字学習や形成プリント、ミニ作文、国語辞典を活用した意味調べなど、文字や言葉に関する「書く」スキルを繰り返し行い、理解の定着に効果があった。特に国語辞典は3年生で初めて使うが、国語の学習時間以外にも日常的に引くことで、言葉への興味関心が広がり、意欲的に取り組む姿が見られた。
- ▲書く活動が中心であったが、音読や朗読、隣の子(ペア)での伝え合い等コミュニケーションスキルとしての内容も検討したい。

【視点2】「話す・聞く」力を高めるための発表や話し合い活動における工夫

話し合いや発表会の形態の工夫

- ◎最初は隣同士ペアで、次に少人数のグループ内で発表や話し合いをしたり、グループのメンバー構成を担当が設定したりなどの工夫を行うことで、スムーズに進むようになった。グループ内だと「あまり抵抗感がなく気軽に発表や意見交換ができ」、「身近で発表資料を読める」などの利点をふまえ、これからも積極的にいろいろな形態を取り入れていきたい。
- ▲せっかくの発表がしっかり聞き取れない場面が見られた。相手に伝わるように話すための技術の一環として音読の学習の充実や発表の仕方のルールの確立が更に求められる。またグループ活動中の個々の児童の学習の様子をつかんでおくためのワークシートの活用を工夫していきたい。

話し合いにふさわしい場の設定

- ◎グループ毎に互いの顔が見え、司会者が中心に来るような机の配置を工夫すれば教室でも複数グループが同時に話し合いをすることができた。また「話す・聞く態度」を示した掲示物は教室に掲示して日常的に意識化させた。機会をとらえて気づかせ訓練することで「話す・聞く」ことを身に付けることに効果的だった。
- ▲話し合いのテーマの設定は児童の実態と授業のめあてによりいろいろ考えられるので吟味する必要がある。また話し合いや発表の場として、人数やグループ数によってはもっと積極的に特別教室を使用することも考えられる。

【視点3】日常的な活動の場での工夫

朝の会や帰りの会でのよりよいスピーチの定着化

- ◎聞き手を意識した話をするとともに、聞き手は質問をすることを習慣化することができた。
- ▲殆どの児童がスピーチを抵抗なくできるようになったが、理由や、5W1Hを内容に入れて話すことはまだ個人差がある。スピーチに限らず全ての場面において指導している。

場面や聞く相手にふさわしい話し方の意識化

- ◎適切な声の大きさや、返事・語尾を意識した発表の仕方など身につけてた。
- ▲日頃の学級の雰囲気やいろいろな話し合いや発表の場に反映される。和やかな学級運営が豊かなコミュニケーション力につながることは明白である。常に話しやすい場、平等に話す・聞く場である教室を心がけていくことが大切であり、工夫していく必要がある。